

3. 組織の運営方針(運営の核心)

設立当初の課題

- ① 設立当初から要望が強かった施設補修については、各集落が納得できる透明性のある計画策定プロセスが必要
- ② 県ガイドライン（外注費は交付金額の50%以下）のクリアと外注依存体質の改善
- ③ 植栽や農業体験などは人材確保が容易ではなく、集落という垣根を飛び越える一押しが必要

対策 その1 活動の計画性と集落間の平等性の確保（とりわけ施設補修に関して）

各集落による点検・機能診断

- ・毎年2～3月
- ・翌年度の活動要望作成と事務局への提出

次年度活動
要望の唯一
の機会



役員による再度の点検・機能診断

- ・要望の妥当性・優先順位の検討
- ・活動計画原案作成



運営委員会の活動計画決定

- ・毎年5月末

集落の要望
を出す場
はないとい
う位置づけ



計画の原則堅持

役員会・事務局へ
の信頼感の醸成

対策 その2

有田佐田沖共同活動サポート隊の設立による多様な人材の確保

設立の目的

- ① 土木等の専門技能・資格を有する人材の確保による直営施工の拡大
- ② 集落の垣根を越えて、賛同する活動に参加できる人材の確保



H26.10設立



● 水路の生きもの調査

設立後の効果

- ① 直営施工や農村環境保全活動数の増加
- ② 女性の活動参加数の増大 (人材の掘起し)
- ③ 様々な情報が集まる
(活動に新しいストーリー展開の可能性)
- ④ 専門家との出会い

運営パラダイムの
転換

有田佐田沖共同活動サポート隊の設置趣意書

平成 24 年に発足した清し有田佐田沖環境保全会では、農地、水路、農道等の維持管理や、農村環境の保全活動の中心に各集落単位の共同活動を基本として事業を実施してきました。

平成 26 年度の活動計画をみると、水路等の施設の補修・更新などを目的とする活動が増加、かつ大規模化していることから、これまで以上に土木等の専門的な知識や技能、作業安全性の確保が求められています。一方で交付金全体に占める外注費の割合は 50%未満に制限されており、これまでのような補修・修繕活動は専門業者に委託するという外注方式だけでは対応が難しくなっていくことが予想されます。

さらに、イベント開催等の増加に伴い、集落間の連携や集落の垣根を越えた人材の確保も急務の課題となっています。

このような課題の解消を図るため、当保全会内に、建設業の経験者など必要な専門技術・資格を有している方や当保全会の活動に賛同して頂ける方を募り、「有田佐田沖共同活動サポート隊」として編成し、集落等の共同活動を支援する体制を構築することによって、当保全会の直営活動の充実と適正な運用を図ることとします。

- (1) サポート隊が支援する活動には、環境保全会の担当役員を配置します。また施設等の補修・修繕活動を支援する場合は、土木関係の技能・資格を有する隊員を中心に作業班編成を行います。
- (2) イベントや軽微な労務作業に従事して頂くことを想定してサポート隊の中に「女性部」を設置します。
- (3) サポート隊の運営や活動については「有田佐田沖共同活動サポート隊規約」をご覧ください。

〈活動計画から実践までの流れ〉



4. 活動の成果 ー農地維持活動ー



年度	活動数
H24	29
H25	25
H26	26
H27	33
H28	39
H29	33



基礎的保全活動実践活動の推移

実践活動数は増加傾向にあるが、「人・農地プラン」策定は3集落にとどまっており、施設の保全管理に関する担い手との協力・役割分担の話し合いは不十分

4. 活動の成果 — 軽微な補修・長寿命化 —

直営施工件数の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
① 施 工 数	6	8	19	14	37	24
② 内、直営施工	1	0	17	14	34	21
直営施工比率 (②/①) %	17	0	89	100	92	88

直営施工増加の効果

- ① 事業費の削減
- ② 土木工事に係る様々な情報や施工に関するノウハウの蓄積により、「自分たちでもできる」という機運が醸成され、サポート隊の支援を受けない直営施工件数も増加

活動事例

● きめ細やかな雑草対策



サポート隊による重機を使った法面整形



地域住民による防草シート張り
とヒメイワダレソウの植栽



開花時にはたくさんのミツバ
子が飛来



毎年、春と夏の終わりに除草
作業を行うことにより植栽を
維持

4. 活動の成果 — 軽微な補修・長寿命化 —

● 農用地の除れき



農用地としての劣化を防ぐため、サポート隊の支援を受けて礫とササ等の根の除去を行う



盛土による畑としての再生

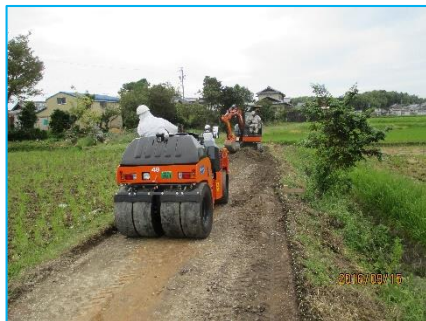


有田保育所と福祉施設によるトウモロコシ栽培体験地として活用

● 未舗装農道の舗装



測量及び路床・路盤工事まではサポート隊で行う



舗装工事は外注



完成後は多くの住民が利用